



profile

昭和40年9月11日生まれ。洞爺町在住。札幌市出身。趣味はクラフトビール研究。

クラフトビールで追い求める
町の新たな食文化

Spotlight

スポットライト



クラフトビールで町の魅力を発信

三浦 芳裕 さん

町の特産品の一つとして知られる赤シソ。さわやかな香りはジュースとしても人気ですが、道内では珍しい赤シソを使ったビールを開発したのが、昨年、町に移住してブルワリーを開いた三浦芳裕さんです。「地元の物を使い、ビールの文化を根付かせたいです」と意気込んでいます。

もともと札幌のIT企業で働く技術者。IT業界と縁遠そうなビール作りですが、生来、モノづくりが好きな上にお酒好き。10年ほど前に余市のワイナリーでボランティアとして働いたことがきっかけで新しい道が開けました。ワイナリーの仕事でお酒作りのノウハウを学びつつ、ブルワリーに必要な設備などについて情報収集。その傍ら、湖の景観に惹かれて洞爺地区で家庭菜園を作りました。

新天地として洞爺湖町を選んだのは町特有の自然に加え、温泉地でブルワリーを開きたかったから。ビールの本

場・ドイツやベルギーでは地方ごとにブルワリーがあり、住民が地元の味を誇りにしているといえます。そんなビール文化を町民と観光客が集まる洞爺湖温泉で根付かせようと「Lake Toyabeer」(レイクトーヤビア)を昨年12月に開業しました。

月浦のブドウなど町名産の果物や野菜を生かして新たな味を模索。今夏生み出した「とうやの赤しそサワーエール」は、町とセンチュリーロイヤルホテル(札幌)が開催した「洞爺湖町フェア」でも取り扱われました。同ホテルと道内市町村の連携事業で、地元の特産品を使ったクラフトビールを販売するのは、開業から半世紀の歴史の中でも初めてのことでした。

「赤シソを使うことで想像以上に面白い物ができました」と振り返った三浦さん。ビールと町の名産品が秘めた可能性を求めて、ビール作りはますます熱を帯びていきます。

東奔西走

祭り囃子に当てられて幼心を思い出したのは、とうや夏まつりでちょうさの担ぎ手にカメラを向けた時。子どもの頃は法被を着て掛け声を上げる大人たちに憧れたものでした。この時撮った写真は2千枚以上。いつの間にか夢中になっていました。(D.Y)

先月開催された北海道トライアスロン大会。水泳、バイク、マラソンの三種目をこなし疲弊していたにも関わらず、選手の皆さんはカメラを向けると笑顔を見せてくれました。大会終了時の天気のように、とても輝いて見えました。(Y.A)

ハロウィンジャンボ5億円

(1等3億円・前後賞各1億円合わせて)

ハロウィンジャンボミニ5千万円

(1等3千万円・前後賞各1千万円合わせて)

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。



各1枚 300円
9月20日水 2種類同時発売!

発売期間 9/20(水)~10/20(金)

公益財団法人北海道市町村振興協会